# こんにちはつるおか No.92

## ――第一次産業応援！！それがテーマです

## 藤田（ふじた） 志穂（しほ） さん

文化起業家。Office G-Revo㈱相談役、一般社団法人全国食の甲子園協会会長。若者の情報共有力・伝達力・訴求力を生かしたマーケティング会社を起業。その後、「ノギャル（農業するギャル）プロジェクト」や食分野に関わる高校生を応援する「ご当地！絶品うまいもん甲子園」の発起人として活躍。庄内農業高等学校地域連携協議会が主催する地域活性化講演会の講師として来鶴。千葉県出身。

庄内地方への訪問は今回で２回目です。前回は「つや姫」をＰＲするイベントでした。今回は庄内農業高校の皆さん等への講演でしたが、学校訪問では元気に声を掛けてくれて、とても心が温まりました。

「好きなものにいちず」。その対象が流行の発信地・渋谷や最先端のファッションでした。流行に敏感という性格を生かして、自分だからこそできる仕事がしたいと会社を起業したのが19歳。その５年後には「ノギャルプロジェクト」を立ち上げました。その理由は、農家の高齢化や後継者不足、また食料自給率の低下など農業や食の問題に関心があったことです。新潟県魚沼地域で米作りをしていた自分の祖父が亡くなり田が耕作されていないこともあって、とても身近に感じました。そこで、若い人たちが農業や食へ興味をもつきっかけを創ろうと思ったのです。

プロジェクトではファッションモデルが秋田県大潟村で「シブヤ米」を栽培し、また、農家の方やジーンズメーカーと一緒におしゃれな「イケてる作業着」を製作するなどしました。この取り組みを知った人から、農業に新しい魅力を感じ、自分も頑張って農家を継いでいきたいという声が寄せられ反響もあります。

また、農業だけでなく、林業や水産業など第一次産業の将来を担う高校生の夢の舞台を創りたいと思い、「ご当地！絶品うまいもん甲子園」を全国食の甲子園協会と農林水産省が主催しています。全国の高校生が地元の食材を生かしたレシピを開発し、日本一を目指して競い合うものですが「夏は野球の甲子園、秋は食の甲子園」と言われるように続けていきたいですね。

「若者と大人」や「古き良きものと新しいアイデア」など、いろいろなものの懸け橋になることが自分の夢です。これからも、農林水産業で頑張る若い人たちを応援する活動を続けていきたいですし、そのことで地域活性化につながればと思います。

農業と地域を新しい視点で見直そうと開催された講演会で「新しい入り口の見つけ方」と題して講話する藤田さん（１月31日／藤島公民館）

# 声 voice

市への意見や質問、広報を読んでの感想などをお寄せください。
◎送り先　本所総務課
☎25 - 2111内線316

### Q ランドバンク事業とは何ですか

空き地や空き家の有効活用のためにランドバンク事業に取り組んでいると聞きました。どのようなことを行っているのですか。

### A 空き家等の問題を解決する小規模区画再編事業です

市では「空き家等の管理及び活用に関する条例」を平成25年４月に施行し、空き家等について、市・市民・所有者の責務を明らかにするとともに、その適正な管理と有効活用を進めています。この中で、不動産や建築関係団体の組織で構成される特定非営利活動法人つるおかランド・バンクが行う「ランドバンク事業」を支援し、空き家や空き地、狭い道路など密集住宅地の問題について、一体的な解決が図られるように取り組んでいます。

具体的には、指定地域内の空き家・土地について、同法人（また

隔月連載

# 鶴岡が誇るものと技

MADE in TSURUOKA

鶴岡発の優れた技術やこだわりの逸品。その魅力や今後の展望を紹介します。

## 第１回　キビソ／ki・bi・so　～鶴岡シルクの新しい息吹～

■問合せ／本所商工課☎内線591

キビソとは蚕の繭の一番外側の糸で、製糸の際に糸口を見いだすためにすぐる緒糸のことです。１つの繭から約５％しか取れず、太さが不均一で硬く加工しにくいことから、繊維として生糸に使われることのない副産物でした。

鶴岡の絹産業の歴史は、明治５年の旧庄内藩士による松ケ岡開墾に始まり、大正時代以降、輸出産業として発展しますが、昭和40年代頃から輸入生糸や合成繊維との競争が激化し勢いを失います。大和匡輔さん（鶴岡kibisoプロジェクトリーダー）は、先人の努力と創意で築いてきた鶴岡の絹産業の将来に対して危機感を抱く一人でした。

「自分たちでは気付かなかった地域資源に、活路を見いだしてくれたのは他所の人でした」と語る大和さん。平成18年に岡田茂樹さん（同プロジェクトプロデューサー）と須藤玲子さん（テキスタイルデザイナー）に出会い、今まで余り利用されてこなかったキビソが、絹糸とは違う独特の表情と風合いをもつ素材であり、大きな可能性があることを気付かせてもらうことになりました。

《キビソ製品の企画販売等に携わる大和さん（鶴岡シルク㈱）》

《キビソの糸》

これをきっかけに、地元の絹産業関連の４社で構成する鶴岡織物工業協同組合は、鶴岡の絹から生まれる「キビソ」を世界に通用するブランドにするため、デザイナーや研究者など様々な人たちと連携した取り組みを始めています。キビソ製品の認知度を高め、販路を拡大するために、地元の松ケ岡やインターネットでの販売の他、東京・大阪・名古屋の大型百貨店や国内外のイベント等に出展しています。さらに、オーガニックコットンやウール等と混ぜた新しい素材の開発、食産業やバイオ関連産業への応用を模索しています。

ブランドに必要といわれている歴史とトレーサビリティ（生産履歴管理）。松ケ岡開墾の歴史があり、絹製品の一貫生産ができる全国唯一の地域であることが鶴岡の強みです。「絹にまつわる伝統や技術を次世代につないでいきたい。『キビソといえば鶴岡が発祥』といわれ、市民の皆さんの誇りに思ってもらえることが夢」と大和さん。国内の他の産地とも交流を深めながら、鶴岡でしかできない「ものづくり」を一歩ずつ進めています。

※５月16日㈮から１か月間、「KIBISO」企画展が東京の松屋銀座で開催されます。

---

は市）がその所有者から寄附や低価格での譲渡を受け、空き家の解体、更地化、道路拡幅などを行います。その後、①隣接する土地所有者へ建替え時に道路を拡幅する条件付きで売却　②町内会（または市）が土地を所有し、町内会管理のもと、車待避所、雪捨て場、コミュニティ広場に利用してもらう　などによって、空き家の解消と良好な住環境整備を図るものです。また関連の「ランド・バンクファンド助成事業」では、空き家の高齢者交流拠点への改修、私道の築造や拡幅整備、空き地を多目的広場や、雪捨て場として活用するなどの活動に対して、上限50万円を助成しています。

その他にも同法人では、空き家の売買や賃貸情報提供、解体の相談受付をはじめ、所有者に代わっての空き家管理や、住宅用途以外への転換の提案等を行っています。

ランドバンク事業についての相談などは、本所建築課または、つるおかランド・バンク☎64-1567へお問い合わせください。

〈本所建築課〉

▲神明町地内で実施されたランドバンク事業のモデル事業《写真…右：実施前、左：実施後》